地獄の免許合宿生活

キャプテン

遂に始まる地獄の合宿生活が…

見知らぬ人間との共同生活はもちろんのこと、おれが一番不安なのは、ちゃんと運転できるのかということだ。
おれは尋常じゃないくらい車に関心がない。なんとかして、乗らないで生きていく方法を模索していたぐらいですから。
道路標識はもちろん、十字路の際の信号や、なんだったらどちら側通行かも怪しいぐらい興味がないし、無知無知野郎なのです。
教官に相談し、「大丈夫ちゃんと教えるから」なんて言われた日には、『言いましたね!?本当ですね!?神に誓いますか!?』ぐらいにとどまらず、指切りもする。さらにそれでも気がすまず
『指切りげんまん、嘘ついたら針千本の一ます。指切った』ってやったあとに、おもむろに後ろから箱を取り出し
『これがその針千本である』
って確認してもらうぐらいしないと気がすまない。そのくらい心配性なのだ。

まぁともあれ、もう手続きしちゃったし、今更足掻いても来年あたりからは毎月おれの口座から25000円ぐらいずつ引き落とされていく。だったらもう必死に勉強して、最短で終えるよう努力すべきだ。前向きに考えるなら、ちゃんと龍馬伝を最終回まで見届けてから、合宿に参加できるってことだろう。あっちでは、テレビを見ることもままならないかもしれないし。カンブリア宮殿とかばっかり見るような人達だったらどうしよう。もうそしたらひたすら一人で暇つぶししてなければいけない。
自由な時間とかどの程度あるのだろう。
もう考えただけで手汗が出る。これはもはやアレルギーの一種かもしれない

合宿初日、まず駅に集合した。しかし誰もいない。
時間を過ぎても誰も来ないので、教習所に電話をしてみた。すると

『今から向かいますね♪』

え!!!今からなのか？

しばらく待つと車が来た。
乗り込んで話を聞いてみれば、まだあと３人いるという。
おれ以外の人達はどこにいるのか??

待つこと10分、おれの前に現れたのは、遅刻したのに平然と無表情で歩いてくる、ヴィジュアル系のメイクをして、なんだかよくわからない場所にピアスをしている、金髪の18,19ぐらいの男性

無理!!!!!!!!!

もう無理！仲良くなれん。

しかしそういうわけにもいかないので
『なんかまだ２人来てないみたいですよ。よろしくお願いします』
って挨拶をした。すると彼はペコリとおじぎをした。

だけ!?それだけ??遅刻しといてそれだけ？

そして椅子に座り、静かにめちゃくちゃ甘ったるい匂いのガムを噛み始めた。
もうなんか、おとなしいのか騒がしいのかよくわからない！

しばらく待っていると教習所から電話があったらしく、なにやら他２人は、当日になってやっぱり直接向かうことなしたらしい。協調性なさすぎでしょ全員!!!!!!

そんなわけで時間が無いので急いで出発した車。すると運転手のおっちゃんがこう言いだした。

「あ、弁当の領収書貰ってかねぇと。ちょっと待ってな」

のんき!!!!!!全員のんき!!!!!!おれ以外全員のんき!!!予定の時間から30分以上が経っているのだぞ。

そんなこんなでめっちゃ時間がおしてるのに、のんびり車は教習所へと向かっていった。

教習所に着くと、説明も特にないままカウンターで手続きをさせられることになった。なんせめっちゃ時間がおしてるのだ。とりあえずおれのせいでないことは絶対に言える。絶対に！絶対におれのせいじゃない!!!

まずやってきて感じたのは超絶に汚い。そしてなんか怖そうなお兄さんお姉さん方がいっぱいいる。なんだったら受付のお姉さんも怖かった。なぜか超ミニスカートだし。膝上何センチなんだってぐらいのスカート。露出の多い服はダメって書いてあったのに、言ってる側が守ってないのってどうなのか？
説明もなくよく分からない書類を書くように促されましたが、とりあえずおれの第一印象は最悪だということだけは明らかだった。見本も何もないし、指示もない。心配性なおれとしては、クエスチョンマークを頭上にたくさん乗せて、自信なさげに書類を書いていった。
本籍地分からない。え？メアドも記入するの？そんな困惑のまま分からない場所は飛ばして書類を埋めていく。そんな分からない場所を飛ばして、本籍地もアドレスも書いてない書類を受付の子に手渡した。

「はい。結構です」

結構なのかよっ!!!!!!

そうして手続きは終わったわけですが、この手続きの間に事実上の顔合わせがあった。一番左端にヴィジュアル君が座り、その右におれ、おれの右に母親同伴で、どうやら既に通っている人物とは知り合いで、仲良さげにじゃれあう同い年ぐらいの男性、その右に同い年ぐらいの寡黙な男性がいて、その後ろにその人のお姉さんらしき女性がいた。
どれもなかなか手強そうだった。でも一番右の人はおとなしそうだし、同じATらしいので仲良くなれそうだ。

そんなこんなで説明のために教室に移動した。ここでは資料などを受け取り、寮の説明なども受けた。しかしここで一つ疑問があった。
付き添いのお姉さんもちゃっかり座ってる！もう一人の方のお母さんはいなくなったのに、右端の子のお姉さんはちゃっかり一緒に付いてきている。過保護!!!それともあれか。実は一緒に受ける人だったのだろうか。
教官が人数を数えだす

「４人ですね！」

いやいやいやいやいや。５人！５人いるって！もしかしておれにしか見えてないのか…？

資料の入った手提げと、寮の部屋番号が記入されたプリントを４枚配る教官。おれは１０１で、あの母親と一緒に来た人は１０２だった。ヴィジュアル君は遠くて見えない。そして謎の守護霊を連れた人は、１０１だった。ちょっと怖いけど安心だ。部屋も一緒なら仲良くなれそうだし。

しばらくいろいろな説明がされ、門限の話になった時、母親と一緒に来た人が質問した。

「あの、おれ、キックボクシングやってるんですよ。自由時間にジムに行きたいんですけどどうしたら良いですか？」

『うーん…やむを得ない場合の外出は、外出許可をもらってください』

良いのかよ!!!やむを得ないのか習い事って！？合宿じゃなくて通えよ。
そんなこんなで説明も終わりかけた頃、事件が起きた

「あのー」

!!!!!!!!!?守護霊が喋った!!説明に集中して全く気にしてなかったが、そういやいたんだ。そして喋れたのか！人間だったのか。

そして彼女は衝撃的な一言を放った。

「この１０１って個室ですか？個室じゃなければ個室にしてもらいたいんですけど」

モンスターペアレント!!これが噂の!!いや、っていうかそんなことされたら、おれが仲良くなれないではないか？全力で阻止だそんなもの。何とか言え教官！そもそも相部屋しかないだろこの教習所は。個室は近くのホテルだろう。

すると戸惑う教官に向かい守護霊はこう言った

「耳聞こえないんで、この子も他の人といるとストレスたまりますし、変に他の方に迷惑かけてもあれなんで、出来れば個室の方が良いんですよ」

……。止まりましたね。時間が。完全に誰かスタンド使いがいます。ザ・ワールド使ったやつがいる。

そう。この子、聴覚障害で耳が両方とも聴こえないらしいのです。だから自分の声も確認できず

、うまく喋れないので黙っていた。それで守護霊もといお姉さんが、代わりに説明を受けて、手話で教えていたというわけです。
なんだかたいへんな免許合宿になる予感だ。

まず適性検査と学科を受けるために、別の教室に移動しました。そこでは既におれらより前に受付を済ましたらしい、大学1,2年生ぐらいの女性２人と、おそらく大型を取りに来たであろうおっさんがいた。
そんなメンバーで適性検査は始まったのですが、忘れちゃいけないのが耳が不自由なＡ君。
お姉さんはもう帰ったようで、教官の指示が全く聞こえてないらしい。名前を呼ばれても反応せず、検査の説明をしても反応せず、それでも教官はあまり気にせず進めていったのですが、まだ始まってないところをやり始めた時にはさすがに焦ったもよう

「ちょっと！まだだよ。まだ！」

どうやら耳が不自由だという情報が入ってないらしい。なのでおれが教官に説明した。

『あの…たぶん、耳が聴こえないんで…』
「え？だったら前の方座れば良いのにね」
『いや、そうじゃなくて…たぶん障害で…』
「…え!?」

……

さっきはいなかった女性２人とおっさんは初耳なので、再び時が止まる教室。おれがスタンド使ったような状態に。

もうおれは帰りたかった。やっていける気がしない。車が大好きならまだしも、取りたくもなく、払いたくもなく、更にここにいたくないという、最悪の事態である。

よくわからない適性検査を黙々と受けていると、なんだか精神障害のような気もしてくる

「線をひいてください」
「三角形を書いてください」
「はいかいいえで答えてください」
「時々世界が嫌になる」
「何もかもが嫌になって死にたくなることがある」
「なんだか知らない声が聞こえてくる」

出してくれー！！！！！おれをここから出してくれー!!!!!!
もはや監獄だ。ブレイクしたい。プリズンブレイクしたい…

そんな憂鬱なおれは更に追い込まれていく。と言うのも、その次の授業は違う教官で、またもＡ君についての情報が入ってないらしい。人間って不思議ですね。そうなると「さっきお前が説明したんだから、お前の仕事だろ」っていう周りの空気。
その後の授業、同じATってこともあり、全ておれが説明していった。技能でも、名前を呼ばれても反応しないので、「この人です」と教官に教える。
そんなこんなで１日目の講義が全て終わり、バスに乗って寮に戻ることになった。このバスについても寮についても説明一切なしだった。
寮に着くと弁当が配られ、各自部屋に戻っていく。同じ部屋の人が誰かも分からず、どうしたら良いかもわからないので、運転手のおっちゃんに聞くと部屋番号を訊ねられたので『１０１』と答える。すると

「おれも！おれも１０１」

そう言って現れたのは、適性検査の時にいたおっさんであった。

そして一応筆記でＡ君に部屋を訊ねると、個室には移れなかったようでやはり１０１らしい。どうやら１０１は、おれとおっさんとＡ君。
合宿前におれは、友人にこう漏らしていた。

「共同生活って無理に決まってるじゃん。だいたい７５歳のおじいちゃんだったらどうするのさ。もはや合宿じゃなくてヘルパーだからね。共同生活じゃなくて介護だから」

なにげにかすってる!!
!
こうしてとんでもない２週間の共同生活がスタートした

そんなわけで始まった共同生活。とりあえず荷物を整理していると、Ａ君が消えた。
しばらくすると大量の荷物と共に再びＡ君登場。そしてまさかのお姉さん再登場。

「よろしくお願いします！なにぶん耳が不自由なので、ご迷惑かけるかもしれませんが。会話もできるだけ筆記でお願いします。よろしくお願いします」

そう、何度も頭を下げお姉さんは帰っていった。とても弟想いなのだ。

部屋はきれいだったが、細かい備品は少ない。ボディソープもシャンプーもないし、洗剤だってない。
おれは100均でなんとかなるかなと思い、ドライヤーぐらいしか持ってきてなかった。すると、ありがたいことにおっさんがシャンプーもコンディショナーも持ってきており、Ａ君は洗剤を持ってきてる。Ａ君に関して言えば、その他にもいろんなものをお姉さんから持たされていた。

お茶(部屋のみんなで分けるように)
午後ティー(部屋のみんなで分けるように)
みかん(部屋のみんなで分けるように)
お米(部屋のみんなで分けるように)

弟が部屋の人たちと仲良くなれるようにと、弟想いなのだ
しかし米って…

そんなこんなでお腹が空いてるので、各自食事にありついた。食事の間に紙に書いて軽い自己紹介をした。

おっさん
49歳
埼玉県民
トラックの運転手

Ａ君
19歳
茨城県民
正社員

おれ

22歳
栃木県民
早く出ていきたい人

食事を終えると布団を敷いたり、部屋をきれいにしたり、風呂を沸かしたりなどの作業。これもおそらくお姉さんに仕込まれたのか、Ａ君が率先して全てやろうとする。今朝にいたっては、いつの間にかおれの洗濯されたシャツやパンツが干されていた。
正直昨日はこの時点で、もう頭の中のキャパシティがオーバーしてて、とりあえず１人になって頭の中を整理したかった。だが、変に意識してか、何か会話をしていなくてはいけないという強迫観念に襲われ、１人になれなかった。自分の時間はほとんどない。しかしかと言っても、父親ぐらいの年齢のおっさんと、口では会話ができない子が相手である。世代の壁に言語の壁。こんなコミュニケーション能力の高さを求められる状況で、コミュニケーション能力激低のおれがやっていけるかと。いやむしろ、通常のレベルがあっても厳しいだろう。自分に置き換えて考えてみて欲しい。同室が、アラフィフのおっさんもしくはおばさんと、言葉が通じない人。そして他の教習生は「暴走族でもちゃんと信号止まるんスよ(笑)」と、暴走族であることをカミングアウトしてる人達だ。昨日は何やら買ったケータイの充電器が欠陥品だったらしく、集団でコンビニに怒鳴りこみに行ったらしい

たーすけてー

そんなわけで、唯一１人になれる風呂に入って、すぐに寝ることにした。風呂はもちろんＡ君が沸かしてくれたので、おれはその次に入る。
おっさんが持ってきたというタオルやボディソープ、シャンプーを使わせて貰えるそうなので、ゆっくり快適な入浴タイムを楽しもうと思ったのですよ。えぇ

まず驚いたのは身体を洗うタオル。垢擦りの。
普通なんか、ザラザラしたタオルじゃないですか。もしくは泡立ちの良い可愛らしいキャラクターのやつ。しかし置いてあったのは手袋でした。

え？

なにやらザラザラしているが、まさかこれで身体を!?いやいやいやいや。おっさんと共同ってだけでも若干の抵抗があり、100歩譲って通常のタオルならまだしも、手袋状になっちゃってるともはや抵抗感しかない。だって個人のっぽいし、それになんか…なんか嫌だ。
おれはとりあえず素手で身体を洗いました。そして続いて髪を洗うわけですが…
いやまぁボディソープ使った時からチラチラ見えてましたけどね…

TSUBAKIって!!!!!!

別にラックスじゃなきゃとかエッセンシャルじゃなきゃとかないけど。49のおっさんがTSUBAKIって！ちょっと嫌だよ。

家の並びで反射的に左側のを取ろうとしたら、コンディショナーって書いてあったので、慌てて右のを使って頭を洗い始めた。しかしなんだか全然泡立たない。TSUBAKIって使ったことないけどこういうものなのだろうか？そう思って手に取ったのを見ると、コンディショナーと書いてある。

あれ？

右がコンディショナー。左は…コンディショナー。Wコンディショナー

もうどうしたら良いかわからない。つっこみきれない。こんなに
なんかもう…なんかもう…あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう。帰りたい帰りたい帰りたい

他にもいっぱいつっこむ所があったけれども、もうキャパオーバーです。むしろ車に乗るだけでもキャパシティをオーバーしてるのに。はたしていつになったら元の世界に戻れるのだろう

朝が来るのがこわい。日に日に元気がなくなっていき、衰弱していく気分。帰りたいよー!!!

今回は少しでもおれのいる、残念なホグワーツのような異世界を分かりやすく説明しつつ、今までの出来事を簡単に振り返ります。
まず、１日の流れ

7:00起床
7:30バス発車(これ一本の強制送迎バスなので、講習が夕方だろうと最後だろうとこれに乗らねばならない)
朝食はおにぎりとスープ。配るわけでも食べる時間が決まってるわけでもないので、各自取っていき、空いた時間に食べます。昼は弁当でシステムは同じ。夜も弁当で合宿所に着くと配られる。ちなみにおれは朝から昼までみっちり講習があったので食べれませんでした。
帰りのバスは18:40と20:40の2本のみ。なので、午前中で終わろうと18:40まで待たなければならない

講習は学校の予定通り進む。今現在は

第一段階
学科 ４/１０
実技 ４/１２

実技の詳細
１.シュミレーション
後ろで何かのビニールを開ける音と、何かを食べる音がした。
２.発進と簡単な走行
初めてなのに特に何の指示もなく、フラフラと不安ながら運転。
３.カーブを重点に練習
前回何も教わらなかったためか、物凄いいろいろ注意されるも、最後は上手くなったと褒められる。
４．バック、坂道、幅寄せ、視線、ハンドルさばき、あと踏切１回
訛りと早口で何言ってるか分からず、さらに怒るものだからテンパりまくってうまくいかず、そんでキレられ、テンパりまくり…以下繰り返し、最後には泣きそうになる。

他の合宿メンバーの紹介としては、女性が３人くらい。おとなしそうな大学生っぽい人が１人。おっさんＢが１人

「さっきの○○んところのチームのやつじゃん！」
「口の中血だらけにすんぞ!!」
「ほうなんふよ(歯が少しない)」
「ピー(放送禁止用語)」
って言うような会話をバスで交わす、上下関係が築かれている、合宿所のヌシ的な古株１０人ぐらいの恐い兄ちゃん集団。

今のところ教官は怒るか黙ってるかだけだし、恐い兄ちゃん達とは絡まないし、おっさんは少しうっとおしく、Ａ君とは筆記でのみの会話。
おれの喉は着々と閉じていってる…

そんなわけで、今のおれの人とのコミュニケーションとしては、ちょいうざめのおっさんとの弾まない会話と、Ａ君との筆記での会話のみです。
で、本日は15:30で講習が終わって空き時間が多かったので、A4の紙いっぱいに筆談をしました。
と言うのも、本を読んでたら、なんかとんでもない質問をしてきたのです。

「家族は幸せ？」

何故急にこんなスケールの大きい話をしてきたのか。しかし紙に書かれて無視するわけにもいかないので答える

『まぁみんな忙しそうだけど不幸ではないと思うよ』

両親共に仕事とバイトのどっちかは毎日入ってて、帰ってくるのは０時を回ってからだし、妹も部活で帰ってくるのは20時過ぎですからね。
しかし不幸ではないと思う。もちろんもっと上の幸せはあるだろうけど。
するとそれに対してこんな返答が

「うらやましい…」

……。スタンド再び！ジョジョ読んだことないし、もう勘弁してほしい。すると固まるおれに対し、続けてこう書いてきた

「ウチはおばと姉だけだから…」

……

『両親は？』
「問題があって…子供を捨てたみたい…」

……。勘弁してくださいよぉぉ！！！！もうこれ以上おれの精神を追い込まないでー!!
それともあれか？こうやってライバルをけずっていくっていう…

いたたまれなくなり、おれは無理矢理話を変えました

『そういや仕事は？』
「車を作る仕事。でも私は物を運ぶだけ…」

なるほど。工場かな？まぁ北関東で高卒の仕事だとそんな感じの多いもんなぁ

『おれは４月から雑貨屋で働く。全国にあるからどこに飛ばされるかわからない(笑)』
「遠くてもいいの？」
『うん。会社の金で旅行できると思えばね。どっか旅行とか行った？』
「沖縄と九州しかない」
『九州行ったことないから羨ましい。九州のどこ？』
「いや、九州はおじとおばに歴史の話を聞いただけ」

ん？会話が成り立ってない。歴史の話を聞いたら旅行にカウントしてるのか？

たった２日間ですが、なにやら小学生みたいな幼い行動が目立つし、もしかしたらそっちにも少し障害があるのかな？いやしかし気になってしまったのは、さっきはいなかったおじがいるということ。……。話を変えよう！

『小学校でサッカー部、中学でテニス部、高校でサッカー部入ったけど、遠いからすぐ辞めた(笑)』
「ハヤッ！私は小学～中学まで野球。でも先輩嫌い」
『おれも苦手だったなぁ。偉そうだし』
「そう。偉そう！命令したり…いじ」

帰ろうっ!!!!!そろそろバス来たでしょ!!!ね？
もはやそのまま家に帰りたい…

今日の教習は普通でした。明日からいよいよ無線らしく、１人で乗らなくてはいけない。
学科も明日で一段階目が全て終わり。明後日のテストに落ちたら、もうその時点で拘留日数が増えていく…

で、生活の方ですが、なんでしょうね。おれだけ距離感掴みそこねてる。なんだか近いんですよやけに。
おっさんもなんかはしゃいで話しかけてくるし、Ａ君に関して言えばめっちゃくっついてくるという。ベタベタベタベタと。腕に抱きついてきたり、背中に寄りかかってきたり…。勘弁ですよ！おれそっち系じゃないし！
おっさん曰く、やはり小さい頃からお姉さんが世話をやいてきたので、どこか仕草が女性っぽいのだろうとのこと。

合宿所に帰ってからも気がなかなか休まらない。別室ではおれら以外のメンバーが集まって酒宴を開いてるようです。良いなぁ。
キックボクシングの子と話して多少仲良くなりはしましたが、さすがにその他大勢も相手取るのはゴメンだなぁ…。まぁ部屋にいてもテレビぐらいしかないんですけどね。
とりあえずテレビは何コレ珍百景とか、映像の分かりやすいものつけてあげれば大丈夫かなぁとか考えて、やはりこれはもう看護に近いものがあるんじゃないだろうか。
そして合間に手話講座みたいのが始まって…。もうおれは何をしに来たんだか…。ボランティア活動なのかな？ボランティア委員長なのかおれは。
おれが卒業する時、その時は車の技術と共に手話も習得しているという…

風呂に入り多少落ち着いたら、もうおれはiPodという最終兵器を使用します。最初はなんかイヤミっぽくて悪いかなと遠慮してましたが、もうこのままじゃおれの精神がおかしくなる。なのでiPodつけて勉強してる感じで、世界を隔離です。

早く家に帰りたいなぁ。
母親に電話でそう話したら大爆笑されましたけどね。
たとえ息子であっても、他人の不幸は蜜より甘いのです。

合宿４日目です。まだまだ先は長い…。
今日は無線のはずでしたが、「どうする？」と訊かれたので、『不安です』と言ったらやらなくてよくなりました。

「じやぁ明日やろう」

あ、結局いつかはやるのか!!
そんなこんなで無線のコースを練習したり、坂道やったり踏切やったり、クランクやったり。
まぁ多少落ち着きはじめましたが、別の恐い教官になったらまたテンパって何もできなくなるでしょう。っていうかカーブやハンドルが未だに不安ですし。

さて、問題は生活の方なんですが…。ちょっと危機感を感じ始めましたね…
あの…Ａ君…女の子が嫌いだそうです。まぁこれはどういうことかと。何を書き始めたのかこの子はと。

いやね。おれがあまりにも寂しすぎて一人でケータイをいじってメールなどしてるものだから、女の子とメールしてるんじゃないかと訊いてきたわけです。なんか説明するのも面倒なので、特に否定せず「はーいはい。はい。そうそう。そう」とテキトーなことしてたら、自分は女の子とはメールしないのだと言ってきたのです。
そうかそうか。うん。そんな反応してたら、女の子が嫌いだと。そうか。うん？まぁうん…そうか。そんな反応でひたすらケータイいじってましたところ。

「バイかもしれない」

そうか。そうか。うん??ん!?んー!!!?

えぇー!!!!!!!!!……。話を広げるのが恐いので、疑問顔をして、わからないならもういいって流れにいこうとしたところ。

「バイってのは簡単に言うと…」

いいいいいいいいいい。説明しなくていい!!というかもういい!!なんかもういい!!!!!!!!!早く家に!!!早く家に!!ここから出してください!!!
明日の学科試験をなんとしても受からねば!!!

受かった!!!学科の試験受かった!
ってことで、なんとか最短までの道は繋ぎました。が、明後日には運転の仮免試験があり、どちらかといえばこっちのが不安です…。乗りたくない。っていうか教官と絡みたくない。THE田舎のおっさんばかりなんだもの。
ガミガミうるさいし、恐いし、訛りで何言ってるかわからないし。もうおっさんは同部屋だけで十分だって。

さて、生活のほう。とりあえず仲は悪くはないです。それなりに上手くはやっていますよ。おれの精神的ストレスは多大なものですが…。
Ａ君だけでなくおっさんも結構なくせ者です。
最近我らの部屋でも酒が解禁されたのです。もちろん酒は原則ダメですよ。だって車の運転を習いに来てるんですから。しかし、もはや暗黙の了解というか、まぁ教官も分かっていて、なんなら「昨日飲みすぎたんじやねぇんか？」なんて質問がそのへんで見受けられるという。そういうことが分かったので、一昨日あたりから解禁されたわけですが…。おっさんがまぁーひどい。ベロベロに酔っぱらってるってわけじゃないとは思うんですが、かなりテンション上がって、凄い絡んでくるという…

「おれも若い頃はさ…」

と言った感じで、説教じみた話が始まるのです。昨日聞いた話を今日もされましたから。
おれがiPod聞きながらベッドで横になってケータイいじろうと、Ａ君が会話できないってのもあってか、おれにガンガン話しかけてきますから。
知らないおっさんの昔のやんちゃ話や、家庭の話、オヤジギャグを毎日聞かされる身にもなってください。どれほどの苦痛か…

Ａ君に関しては出来るだけ距離を置くようにしています。二人きりになってしまったらケータイをいじり出します。用もないのに。

生活の家事だとかについての不満はほとんどありません。というのもＡ君がほとんどやっちゃいますから。洗濯や風呂の用意は、もはやＡ君の仕事になりつつあります。最近はなんだか変な抵抗感がありますが…
まぁそういうこともあるから一番風呂は基本的にはＡ君。その次におれ。そんで最後に、おっさんが入るという感じです。
おっさんがまた酒ばかり飲んでなかなか風呂入らないから、ひたすらに話しかけてきて、おれは寝ることもできない。昨日は勉強もできませんでしたから。
ちなみに今日は合格祝いとか言われ一番風呂におれが入りました。正直Ａ君の先に入るのは若干

の抵抗がありましたが、Ａ君は落ちたために試験勉強をしていたので、渋々入ることにしました。風呂に入り、身体を洗おうとシャワーを出そうとすると、お湯が出ない。いくらひねっても出ない。どうやら部屋についてるお風呂のボタンがお湯になってないらしい。仕方ないので一度出て、タオルを巻いてお湯にしてもらうようにおっさんに頼むと、おっさんはＡ君に勉強を教えていたようです。
お湯にしてもらい、風呂に入ろうとすると、おっさんに呼び止められた

「あ、ちょっと待って！」
『え、何ですか？』
「あ、いま、パンツはいてる？」
『え？いや、はいてないです。』
「あ、タオルは巻いてるでしょ？」
『はい。』
「分からない問題があるから、タオル巻いたままで良いからちょっとこっち来て教えてあげて」

いやいやいやいやいや!!!それは勘弁してくれ!!!こわい！なんかこわい!!!服着てない状態でそっちに行きたくない!!!

『え……いやぁ…』
「なんで、恥ずかしくないでしょ。タオル巻いてるんだから」

普通の男同士だったらね!!

特技は将棋と恋愛だというＡ君。もうこのまま試験落ち続けて部屋の移動になってくれないかと思ったりもします。
早くこっから脱出を！

風呂から出てきたらおっさんにチャンネルをFNS歌謡祭から別のに変えられてました。好きなテレビも見られない監獄生活。もう寝る時間ばかり早くなります。しかし寝たら寝たで次の日がすぐにやって来て、鬼教官を乗せる時間が近付いてくる

はぁ…
だいたい教習所ってなんなんですか？
見知らぬ加齢臭のおっさんを助手席に乗っけてのドライブランデブー。それだけでも嫌なのに、あぁでもないこうでもないと横から言われる50分。これを２週間とかアホなんじゃないかと。
はぁ…。早く出所させてくれないと脱獄計画を練りかねん。そんなことを考えていると

「キャプテン君さぁ〜、おれね昔ラーメン屋やってたのよ。でさぁ〜…」

おっさんのマシンガントーク炸裂。500ミリのビールを３本開けてました。まだ酔ってはいないでしょうが、完全に高揚してる。これがたち悪い。
酔っぱらっていれば無視しても大丈夫だろうしそのうち寝るだろうけど、まだ気持ちよくなったばかり。そして懐かしい昔話を若者に誇らしげに語って、さらに気持ちよくなろうってんだから、たちが悪い

「はぁ、そうなんですか。」

とテキトーに相づちを打ちながら、「ウチはこれ毎週見てるんだ」とか言われて、見たくもない世界ふしぎ発見を見せられる。そしてあっちのペースで消灯され、就寝という。

早く監獄から出所して社会復帰せねば

仮免試験でした。もう緊張しまくりです。ちなみに学科の試験に落ちたＡ君なんですが、仮免を受けました。
何でかと。落ちたのになぜ修了検定受けてるのか。
実は個室に呼び出され、そこで特別に試験させてもらったらしい。
え、ちょっとずるくない？
まぁでもハンディキャップあるから仕方ないのかなぁと思ってたんですが、終わってから聞いたら２３回試験やったっていうじゃないですか!!!
いいのか!?２３回って!!!ようは受かるまでやったってことじゃないか！
他の落ちた人は２回までしか受けれないのに

そんなこんなでおれと一緒に仮免試験。仮免試験はＳ字とクランクと踏切、坂道なんかをやります。合図とかもちゃんとしなきゃいけないわけですよ。30m手前からね。しかし教習所が狭いので、もう全然視界に入ってない位置で合図したり寄ったりしなきゃいけない。そしで曲がったらすぐクランク。もう無理だろって感じです。なんだよクランクって。ディズニーランドに行った人が、絶対に買ってくるお土産のチョコみたいな名前しやがって。
ちなみにおれは普段の講習では、１回くらいは乗り上げるかぶつかりますね。だからもう運ですよ。運

そんなこんなで始まった仮免試験。順番待ちの人は、一つ前の人のに乗ってコースを予習したりします。おれも呼ばれて乗車して、タイミングとか覚えようとしたんですよ。そしたら、なんか見たことも触ったこともないギアが付いてた。なんか運転手が、走るたびに左手でクネクネさせとる。

教官「ほーらエンストしたよ～」

え!?ATはエンストしないんじゃ…マニュアルじゃね!?これマニュアルっぽくない!?
なぜかわかりませんが、マニュアルの後部座席に乗せられていました
いやいや！！全然参考にならんやないかーい！(髭男爵風)

そしておれの番になってしまった。
とりあえず不安なので、おれはATですよってことを伝え、AT車を出してもらい乗車しました。ちなみに後部座席はＡ君が乗っています。
いざ仮免試験スタート

あの時の気持ちを表すなら、もう無心。ロボットとなりました

イワレルママ、イワレタママウゴクノダ

無心だったので実際どうだったのかは分かりませんが、クランクもＳ字も左折も、脱輪せずにできたハズです。スムーズかは置いといて

そして終盤に差し掛かってきた。残るは踏み切りと坂道だけだ。するとロボットが人間へと姿を変える
イケルいけるぞ！と
減点はあったとしても安全確認が甘いとか、スピード不足とかその程度だろう。踏み切りも坂道も、クランクとかＳ字に比べたらおちゃのこさいさいだ。むしろ得意と言っても良い

踏切の前で止まり、窓を開ける。左右確認。よし行け！
さぁ坂道だ。坂道は途中で止まり、ハンドブレーキをかけてアクセルペダルに足を起く。ハンドブレーキ解除→クリープ現象で発進。頂上にきたらギアを片手で３にし、ブレーキいっぱい握りしめてゆっくりゆっくり下っていく(ゆず風)
ギアを戻す→左合図。そしてポールで止めろぉ!!

終了

おれの長い長い無心の時間が終了しました。ここでＡ君は降りて待ちます。おれはそのまま車の中で教官から反省点などを聞くのですが、正直安心していました。大きなミスはない！と

「んーまずね、スピードがもうちっと欲しいなぁ。」

ほら来た。まぁ恐いんだから仕方ないじゃない。だって教習所が狭いんだもの。

「次に安全確認。これももうちょっとだな。まだ形式的にやってるだけに見える。ちゃんと意識をしないと。ただやってますってだけじゃ駄目だ。」

うーん…。やったつもりだけど、まぁ無心だったしなぁ。巻き込み確認なんかはちょっとまだ忘れがちかもしれん。
まぁこんなところだろう。おれの予想通りだ。細かい減点だけで済んだ。合格ラインの７０点以上は固い

「で、…」

ん？で？？

「で、…なんで最後の坂道、ニュートラルでおりた？」

へ？にゅーとらる？
いやいやギアを３にして坂道は下るんでしょ。知ってるよそんなの。なんだよにゅーとらるって。おれはちゃんと片手で、ボタン押さないで、ギアを一つ前に押し出して…
ぬぉぉぉ!!!!なんじゃこりやぁぁぁ!!!Ｄの一つ前ってＮって書いてあるじゃん！ニュートラルのＮじゃん!!!３は後ろじゃんか!!!

落ち着いて分かりやすくと説明しますと

Ｐ
Ｎ
Ｄ
３
２

こんな感じにギアがあるのです。
で、坂道は頂上になったらＤから３にするのですが、おれは一つ動かすということに意識がいってて、一つ後ろに下げるのを一つ前に出してＮにしてしまったと。
もちろん坂道は下れましたし、すぐにＤに戻したので運転に支障はきたさなかった。しいて言うなら「なんかいつもよりスピードが出るなぁ」と思いながらすぐＤに戻したぐらい。
ゴールを目前にし、焦る気持ちでギアを見ないで操作してたので、言われるまで気がつかなかったし知らなかった…

『…間違えました…前と後ろ…見ないで操作してて…』
「路上出て間違えましたじゃ済まねぇからなぁ。もし人でもひいちまったらなぁ」
『…はい…』
「はい。じゃぁもう行って」
『はい…』

終わった…おれの監獄生活が…拘留延長…
次に乗るＡ君は運転が上手なので、なんなくゴールしました。

しばらくして発表の時間となりました。おれの番号は７番
教習所の受付のそばにある黒板に結果が貼り出され、７番のところに『合』の文字が無ければ不合格。補修を受け、明後日もう一度受けなければいけない。そうするともうその時点で最短予定から２日延びることに…

教官が皆を黒板の前に集める。おれは静かに顔を上げて７番を見る。

『合』

あったぁぁぁぁ!!!!合格してた!!!まさかの奇跡！
そんなわけで見事合格し、最短での道をつないだ。と思ったら、教官が何やら不思議なことを言いだした。

「じゃぁ少ししたら学科の試験やっから、合格した人は２階の教室行っておくこと」

へ？学科の試験ー昨日やらなかった？？２回やってそれどっちも９０点いったじゃん!!
解散したのち、優しい若い教官に訊いてみると

「あれはね模擬試験。リハーサル。次が本番だから(笑)」

えぇぇぇぇー!!!!!!
試練はまだ続いてたのだった…

さて、今までのを整理しますと、学科を全て受講すると、模試を受ける。これを２回合格しないといけないのです。ちなみに模試は毎日やってまして、１人１日２回までしか受けられない。
そしてそれに受かると、実技のテスト、つまり仮免試験を受けられる。こちらは週に３回しかチャンスが無いです。火木日のみ。これに受かると学科の試験です。ここで９０点以上の合格点をして初めて仮免獲得なのです。

模試２回とも９０点以上
↓
実技試験合格
↓
学科試験９０点以上
↓
仮免獲得

こんな感じなのです。

さて、それで学科試験ですが、まぁ基本的には模試と同じです。模試よりは多少難しい問題も出てましたが。
結果は実技と同じように黒板で発表される。
２番だった方が落ちてしまったので、おれの番号は６番になった。

教官に再び呼び出され、黒板の前に立つ。
先ほどと同じように顔をゆっくり上げて６番のところを見る

『合』

あったあぁぁぁぁ!!!仮免獲得！！最短卒業の可能性維持！
そんな喜ぶおれの数字の横。先ほどのおれの受験番号７番

なし

『合』の文字がない。
つまり、先ほどおれの後ろの８番だったＡ君の数字が７なわけで、そこに『合』が無いということは不合格。
へこむＡ君。
可哀想だなぁ。しかし優しくして変に勘違いされても困る…。なんともどうしたらいいのか分か

らない事態であった。

再び教室に行き、点数発表と説明が始まる。
ちなみにおれは９４点
Ａ君は８０点でした

ずっと落ち込んでいるＡ君は、帰りのバスでも１人で先に乗り込んで黙っていました。そして合宿所に戻ってくるとすぐに洗面所に行き、顔を洗った。泣いていたのだろうか。
まぁ、ね…。厳しい言い方かもしれないが仕方ないことですよ。こればかりはハンディキャップがどうとかで特別に何回もやらせてもらえるものではないし。障害があるからって、そうなんでも特別にするのはどうかとおれは思いますし。正直なところね。
それにだいたいね…。模試の前日にコンビニで買ってきたブリーチの単行本読んでたりＤＳのゲームをやっているＡ君と、貰った練習問題５枚を全て３回ずつやって２５０問完璧になるまで勉強したおれで、同じなわけないだろうがぁぁぁ!!!!!!
当たり前だろ!!!こちとらちゃんと勉強してるんだ！それを君は勉強嫌いとか言って、テレビ見るわ漫画読むわ、ゲームやるわ。おれがいくら勉強した方が良いよと言っても、「イヤだイヤだ」でやらなかったじゃないか!!!

そんで落ちたら、特別に個室でコソコソ２３回も試験受かるまで受けて
ずるいよ!!!!!!むしろそれだけやって覚えなかったのかと！

授業中だって隣に座って、ちゃんと先生の言ってるところを教えてあげただろうと！おれだってそのせいで聞きそびれたりもしたさ。それを補うためにちゃんと勉強したのだ。合宿所ではおっさんも邪魔するから、教習所で必死に時間を見つけて勉強したさ。それなのに君はおっさんとイチャイチャしたりしてただろう！ケータイのアプリやってただろう！そりゃ落ちるよ。悔しかったら勉強しなさい!!!

落ち込んで帰ってきたＡ君でしたが、再び漫画読んでいた。
おい!!!反省しろ！
しかもそのタイトルが『溺愛ハニーなんとか』
少年向けではないことはたしかだ。うん…やはり優しい言葉はかけないでおこう…

現段階の整理

模試
おれ…２回とも一発合格
Ａ君…２回不合格したが特別措置の２３回で合格

ヴィジュアル君＆キックボクシング君…どちらも不合格。２日目も不合格。

実技試験
おれ…合格
Ａ君…合格
ヴィジュアル君＆キックボクシング君…参加できず

学科試験
おれ…９４点で合格
Ａ君…８０点で不合格

今後
おれ…第二段階へ
Ａ君…明後日再び学科試験へ。ダメなら木曜日にまた学科試験へ
ヴィジュアル君＆キックボクシング君…明日模試を受けて合格なら実技へダメならまた明後日

とりあえず最短での道は繋ぎとめましたが、先はまだ長い…

初路上。路上はかなり緊張しましたが、実際走ってみると思ってた以上に楽チンでした。
ってかスムーズでした。かなり。
もちろん集中はしますけど、真っ直ぐの道が多いので、曲がったらすぐ合図してまたカーブ、そして少ししたらまたカーブみたいな、狭い教習所に比べたら、どんだけ快適か。
２回目の教官は以前の鬼教官で、また泣きそうになりはしましたが…

学科は聞いてるだけですし、とりあえずは最短路線を順調にひた走っています。
だから悩みの種としては、鬼教官に当たる可能性とＡ君との適度な距離感、そしておっさん。

Ａ君は最近いろんな教習生に絡むようになりました。そのどれもが、大型を取りに来たりしてるマッチョな男性ってことは、いささか見たくないものですが…
なのでおれとの距離は多少離れました。今までのようにベタベタしてくる頻度が少なくなった。
しかしこのあいだいきなり頭を撫でてきたので

「何！？」

って、つい大きな声出しちゃいましたが。

以前女性が、好きな人に頭を撫でられるのは好きだけど、好きでない人に撫でられるとものすごく嫌だって言ってたのがなんとなく分かってしまった瞬間でした。もはや恐怖しかなかった

おっさんはおっさんで、酒飲んで饒舌になっておれを解放してくれませんし…
あと、タバコ吸うんですよ。いや別にまぁ良いんですけどね。ゲーセンのアルバイトで大量の副流煙吸わされてきましたから。
ただ、最初は外で吸ってくれてたんですよ。おれもＡ君もタバコ吸わないので「外で吸うよ！」って
しかし寒かったんでしょうね。
１時間後

「あ、換気扇あるじゃん！ここで吸えばいいか。ここで吸っていい？横でスパスパ吸っちゃ悪いもんなぁ」

えぇぇー!!!!!!!!!早くね！？自分に甘すぎじゃない!?
そんなわけで１時間後には中で吸うようになり

次の日

「でさぁ若い頃にヤクザに絡まれたわけよ。」
『はぁ…』
「そんでもヤクザなんてのは大嫌いだったし、絶対にこっちから折れるもんかと思って…」

普通におれの横でタバコ吸ってるという。
換気扇とか無視！というかエアコンの風に見事に乗っかって、おれにダイレクトアタックしてきますから。
そして最近は目覚めのタバコなんかはベッドで吸いますからね。火事になったらどうしてくれるんだと。というかおれの布団とかめっちゃタバコ臭くなる!!!
吸い殻もゴミ袋に入れるだけ入れてまとめて捨てるものだから、部屋中に吸い殻の臭いが充満している。そんな監獄なのですよ。

ちなみに朝はおれが一番最初に起きます。
おれが6:40に起床し、寒いのでエアコンで部屋を暖め、顔洗って歯を磨く。
お湯沸かして、昨日貰った朝食のスープとコーヒーを飲む。
そして着替えて準備して、7:20頃に電気をつけて二人を起こす
そんな感じ

おっさんは夜中まで酒飲んでるし、Ａ君は朝弱いので、おれが起きないとおそらく１０１の部屋は置いてかれる。だから早寝早起きに徹しています。
夜中の見たいテレビも見れないし、遅くまでケータイいじることもできません。
なんとかあと１週間をきりましたが、おれには『あと６日もある』という風にしか見えない…

はぁ…帰りたい。帰って浴びるように酒飲んで夜更かししてやるんだ。その時の快感のために、おっさんの酒に付き合うのはやめよう。勝手に１人で飲んでくれ。おれは模範生としてここを最短で出てやるぞ

こんな地獄なような環境を生き抜く上では、ささやかな楽しみってのが必要になってくる。
ブログやメール、電話での通常のコミュニケーションだったりもそうだし、教習所からも部屋からも解放されたコンビニでのひとときなど。そういうささやかな楽しみ。それを知ってもらうことで、より「あぁ…病んでるなぁ」と感じていただければと思います。

まず朝。この瞬間は完全におれの時間です。他２人は寝てますからね。
短い時間ですが、おれが一人で気にすることなくぼーっとしたり考え事ができる時間。
あとコーヒー。実家でも朝はコーヒーを飲むのですが、ここではコンビニで買ってきたインスタントコーヒーを毎朝飲んでいます。で、１１袋入りなんですよ。キリマンジャロ、エスプレッソ、ブラック…っていう５種類の味が２本ずつ。で、その中のどれか１種類がランダムで１本増量してるっていう。これを、選ぶ楽しみもまぁ多少ありますが、おれが何よりも楽しいのは減っていく楽しみです。インスタントの袋が毎朝一本ずつ減っていく

『このインスタントコーヒーが全てなくなったら…』

逆最後の一葉
逆だから悲しくはなく嬉しいし、逆だからペンキで書かれようものなら、憤怒します。メロスのように激怒します。
そんな、インスタントコーヒーを減らしながらカウントダウンする、ささやかな楽しみ。

また、日程表があるんですよ。何日の何時から学科があるとか試験があるとかの予定表みたいなやつ。これを１日ずつ塗りつぶしていく。これもささやかな楽しみです。左端から、線がひかれた最短卒業の日付まで、どんどんと黒く塗りつぶされていく。黒い部分が多くなり、線に近づいていく幸せ…。黒の領域が半分以上になった時、どれほど嬉しかったか。
自分で書いてて、なんかヤバイ奴みたいに思えてきた…(笑)

こんなものです。おれのささやかな楽しみは。とにかく出所できる日が近付いていると、そう感じられるものが良いのです。

そんなわけで今日も無事に終わりました。
帰って弁当食べて風呂に入り、おっさんにテキトーに相づち打ちながら眠る。
そうするとまた静かな朝がやってきて、インスタントコーヒーを一本減らし、『どうか鬼教官じゃあまりませんように』と祈りながらいつもの日がやって来る。この繰り返し。
早く元の世界に戻りたいなぁ…

出所予定日まで残り４日。
縦列や方向変換、シミュレーションで子供をたくさんひき殺し、今日から再び路上を走れる。
路上をやりながら高速をやって、あとは学科の応急と試験ぐらいです。いやぁ長かった。もちろんまだありますけど…

そんな今日、路上を走ってると、担当の若い教官にこう話しかけられた。

「そういえばキャプテンさん、○○小学校って言ってたっけ？」
『あぁそうです。中学は○○中です』
「ということはあれかな？受付の子と一緒？」
『え？』

一瞬どういう意味かと困惑したが、すぐに頭の中で点と点が繋がった。

『あぁ…やっぱそうだったんだ…似てる人かと(笑)』

実は、入校手続きの時に受け付けにいた女性を、どこかで見た顔だなぁと思ってたのです。
で、しばらく眺めてたら

(…小学校の時の同級生に似てる)

そう思ったものの、教官と違って受付の人の名前は分からないし、中学は一回も同じクラスになったことないし、それ以降会うことも顔を見ることもなかった人ですからね。他人のそら似の可能性だって大いにある。あと、…言っちゃ悪いが、小学生の記憶が一番鮮明だから、その…老けてね、…見えたと言いますか…

そんなこんなで、入所して１１日、出所まであと４日にして、受付の女性が小・中の同級生だったことが発覚しました。
しかしまぁ教官にも言いましたが

『確信を得たところで、特に話したりしないと思いますけどね(笑)そこまで親しかったわけじゃないので。』

確信を得て変化があったこととしては、用がある時は、その子じゃない人がいる時に行かなければならないという。
わかったことで逆に気まずくなっちゃったよ。１１日間無視してたってことだもんなぁ。

あっちも「見たことあるかも…」って感じてたらしいし、もうなんか…非常に気まずくなっちゃった。ってかそうそうおれの名字いないんだし、確信持ってくれてもいいと思うのだけれど、よほど印象に残ってなかったんだろうなぁ。
まぁおれもそうだけど

監獄生活１２日目。
監獄での暮らしも、そろそろ２週間になろうとしています。監獄生活が長くなってきたことで、おれにも若干の変化が見受けられてきました。
まず、しゃべり方が訛ってきたんじゃないかと…
周りのほとんどが鈍ってる人ばかりの生活。おれは標準語を失ってないだろうか。物凄く恐い…

あと体重。おそらく増えたでしょう。毎日1000キロカロリー超えの弁当を2食も与えられるのです。まぁ全部は食わなかったりしますが、にしたっていつもより明らかに多いに決まってる。それにバランスのバの字も考えられてない献立です。今日の弁当なんか、唐揚げ、コロッケ、焼肉の、茶色オールスターズが、大盛りご飯の上にドカッと乗ったお弁当ですよ。おそらく1500キロいってるだろう。

そして更に重大な変化が今朝になって１つ。
具合が悪い…頭痛いんですよね…喉も痛いし、多少熱っぽい。
嫌な予感はしてたんだ。だって教官はみんな50、60歳以上のご老体。免疫力がすこぶる低下していて、先週あたりはほとんどの教官がマスクしたり咳したりして、死にそうだった。そんな具合の悪いおっさん達とずぅーっと一緒にいるんですよ。
教習所からも合宿所からも、特に用事がなければ出掛けられない。太陽の光を浴びないことが多い日だってある。
運動不足も災いし、更に食事は脂質と炭水化物ばかりと来たら、もはや具合が悪くならない方がおかしな話だ。
おれに関して言えばストレスという名の病原体も押し寄せて来ている。死んでしまうよ！

更に今日は

乗車
応急
応急
応急
休み
学科
乗車
乗車
テスト
帰宅

ってな具合で、疲労も加わってしまいました。
しかしテストが８５点で５点足らなかったから、今日は勉強しないと…しかも明日の朝一番っていう。ここに来て最短の道が危うくなってきたぞ…

あと高速も走らなきゃ。
ぐわー勉強せねば!!!!!!
ポカリ、アイス、豆乳、野菜…あと高いのど飴。身体に良さそうなものはだいたい買ってきた。
明日のテストで100点取ってやるんだ。そんで、85点を冷ややかな目で見た、あの同級生をギャフンと言わせてやるのだ。
がんばりマンモス

今回の話の主人公Ａ君。彼はアブノーマルです。男の方がどちらかと言えば好きで、まぁどちらもいけるというハイブリッドな男の子です。そんな彼が筆記で「特技は恋愛」と伝えてきた時おれはゾッとしました。しかし彼は続いてこう書き始めた

「好きな人はいるけどね」

おいおいおいおい!!!恐いじゃないか！文字でこっそり伝えてくることで余計恐いじゃないか!!!
そして更に続く

「年上だけど」

やめろやめろやめろ!!!!!!
緊急避難警報発令！緊急避難警報発令！ただちにこの場を離れよ！！
そしてこう書いてきた

「会社の人」

ふぅーーーっ
緊急警報解除。緊急警報解除

こうしておれの平和は保たれてきた。しかし完全に安心はできないので、その後も警戒しつつ接してきたわけなのです。
さて、そんなこんなで、会社に好きな人がいるのなら、教習中は特に事件も起こらず平和だろう。そう考えて最近まで過ごしてきたのですが、長い監獄生活を経て具合を悪くしたおれと同じように、ここにきてＡ君にも変化が現れたのです。そしてその変化はＡ君の本性を現すものとなった。なんと、ここ何日かで教習所でも好きな人が出来てしまったようです。
男です。おれではないですよ!!!
その相手というのが、バスで送迎してくれたり受付をやったりしてくれている若い教官見習いの男性。おれと同い年か１つ下だったはず。岩手から出てきたという、おとなしそうな優しいニコニコしてる男性です。
やたらと話しかけてるなぁとは思っていましたが、まさかそんな下心があると思わないじゃないですか。
最近になってそれが発覚し、もう隠すつもりもないんでしょうね。ガンガン絡んでいきます。おっさんは面白がってくっつけようとしていて、会話で何かとその人のことを引き合いに出します。そしてそれにデレデレしながら照れるＡ君。正直、気持ち悪いなぁと…
その教官見習いの男性ってのは、同じ合宿所に住んでるんですよ。まぁ管理人みたいなものです

。だから襲っちゃえと、おっさんが言う。

「襲っちゃえよ」
「んーんー(照)」

そんなやり取りが行われていたのです。で、しばらくしておっさんがコンビニに出かけたあと、筆記でおれにこう訊ねてくるのです。

「無理よね…」

知らん!!!おれを巻き込むな！というかなぜ女言葉になった!?

「どう思うの？」

いやいやいやいや。だから知らんって！

『まずは友達になれば？』

そう当たり障りのない返事を書いて、おれは勉強に集中することにしたのです。すると

「がまんできない」

なにをぉぉぉぉ!!!!!!!?ちょっと勘弁!!マジ勘弁!!!我慢してるの!?何か我慢してるの!?いやあえて何を我慢してるのかは知りたくないが…
するとおっさんが帰ってきた。そしてしばらくおっさんと筆記でやり取りし始め、とんでもないことを書いたのです

「食べちゃいたい」

逃げろっ!!!!!!今すぐ逃げろ!!!危険人物だそ！
更に続けてこう書いてくる

「あっちがタチかウケかわからない」
「お前はどっちなんだよ」
「ウケ」
「ウケか。じゃぁあっちがタチなら良いわけだ。」

……
どうですか。横でこれを聞かされてるおれの精神的苦痛…
そんな会話が続き、あるときおっさんがこんなことを口にした。

「でもおまえ浮気だぞ。浮気」

？？浮気？

「毎朝毎晩メールもらってんだろ？浮気してますって送っとけ」

何を言ってるんだろうか？わけがわからないのでおっさんに訪ねてみたところ、Ａ君は会社の好きな人と両想いのだということです。男ですよ。もちろん。毎朝毎晩その彼氏とメールをしてるそうです。つまりそれがあっての「ウケ」ですよ

早く出たい!!!!!!!!!

テスト合格しました。あとみきわめだけです。

実は朝一にテストがあるはずだったんですが、予定表を見たら高速教習になっていたのです。
これでは、テストが受けられないじゃないか！どういうことだ！朝５時に起きてちゃんと勉強したおれの努力はどうなるのかと。そう受付の教官見習いの人に訊ねたところ

「ぁ、大丈夫ッス、ぁの…終わったあとに、午後個別でやっていただきますんで…はぃ。大丈夫っす」

そんな感じに素朴な笑顔で言われ、午後から一人で受けさせてもらいました。
答え終わり、受付に持っていくと、教官見習いの彼は入校受付をやっていたので、おれは横で待っていました。すると

「あ、はい。こちらでやります。」

そう言ってやって来たのは、あの同級生であった。最初の入校手続き以来、初めて喋った。気まずっ。
とりあえず答案用紙を渡し、採点を待つ。しばらくして呼ばれ、行ってみると

「９６点なので大丈夫です」

あぁ良かった。しかしたしかもう一回受けなきゃいけないはず。そう考えていると

「あの…○○小でした？」

遂にあっちから踏み込んできた!!

『…はい。○○小でした』
「やっぱり。覚えてます？」
『うん。似てるなぁと思ったけど、名札が付いてなかったから、まぁ良いやと思って』
「あ、ですよね。最初、絶対にそうだと思って」

絶対にそうだと思ったのならそこで言って欲しい!!!

「あ、もう一回…もう今から受けちゃいます？」
『あ、うん。早めに終わらせたいし』

(なんで敬語で会話してんだろう…なんかモヤモヤする)

「あ、そうだ。見直し…します？」
『え？あ、いい』
「あ…そうですか。フッ(冷たい笑い)」

うわぁ…冷たい笑い。あぁ、そういや小学生の時も同じような笑われ方をされた気がする。全体的に冷たい印象だったなぁ。転校してきたってこともあってか、どこか都会の人っぽい、異様な感じだったそういえば。そんな懐かしい記憶が蘇っていました。

「じゃぁ…どうしよう…う〜ん…問題同じので良いですか？」

え!?逆に良いの？同じなら受かるに決まってんじゃん！

『え!?…あぁ、じゃぁ同じので…』
「フッ、はい。」

そうしてもう一回同じ問題を同じように回答しました。正直悩んだんですよ。点数下げたら面白いかなぁとか、そしたら冷たい笑いじゃなく大笑いしてくれるだろうかと。けれど、こっちとしては早急にこの監獄から出たいという思いの方が圧倒的に大きく、全く同じように答えて全く同じ９６点を取りました。まぁ同じ点数でも『そりゃ同じ問題同じように答えたんだから当たり前でしょ(笑)』とか言っておけば、まぁ和むだろうと。そしたらそんなおれの配慮も無駄で、教官見習いの彼が戻ってきたので、彼が答え合わせしてくれました。そうして同じ９６点で合格。
なんか採点してる時、彼女が教官見習いに笑いながら「同じ云々」って言ってましたが、あれが「同じ学校だったの」と言っていたのか、「同じ問題やらせたんだもん(笑)」と言っていたのか、気になるところです。
そんなわけで久しぶりの再会の溝みたいなものも、ほんのちょこっと埋まり、更にテストの心配も無くなり、一気に悩みの種が消え失せた、そんな1日でした。

遂に卒研となった。なんとまさかのおれからスタートで、おれをトップバッターに卒検は開始されました。
車には運転席に受験者、助手席に教官、そして後部座席に次の受験者が乗車し開始されます。コースは、校内を一周してから外に出たあと、教官の指示に従いながら進み、途中からは自分で設計した経路を進みます。そこで次の受験者に変わり、その受験者も同様に途中までは教官の指示に従い、途中から教習所までは自分で設計した経路を進むというもの。
当日は雨の予報で、怪しい雲行き。そういう点では初っぱなは良かったかもしれない。雨が降る前にゴールしてしまおう。そんなこんなでおれの卒検が始まった。普段通りに乗車し、普段通りにコースを一周し、普段通りに路上へと出た。路上に出てまず最初の関門は見通しの悪い交差点である。カーブミラーを使いながら左折する。しかしこうして道路に入ってしまえば、もうおそらく関門という関門はない。次の交差点を右に曲がってまっすぐ行き、再び交差点を右に曲がる。そうしてガソリンスタンドを右に曲がれば、もうそれで教官の指示に従う区間は終了である。
本番はその先の自主経路。今まで教官の指示なく走ったことがないので、そこが一番危ない難関だ。そう考えながら交差点を右に曲がったその時であった。右に曲がると前方に何やら車が停車している。しかもパトカーが。そしてこうも書いてある

「事故現場」

うぉぉぉい!!!!!なんだコレなんだコレ。学科で習ったことないぞこんなの!!!!!!
テンパるおれをよそに、教官は何も言いません。そりゃ卒検だもの。
とりあえず右に合図を出して避けることにした。中央に寄り、左に合図を出し再び道路に戻ろうとハンドルを切ると…
うぉぉ!!!!!!!
なんとパトカーの向こう側には警官やいろんな人が立って現場検証をしていた。
ひいてしまうひいてしまう!!!!!!!慌てて左に切ったハンドルを右に戻し、フラフラと避けるはめになり、実はこれが軽く減点対象になっていた。
次の交差点も右に曲がり、その後も順調に進んでいった。そうして、教官の指示に従う区間が終了。このまま自主経路に入るかと思いきや、教官が思いがけないこと言いだした。

「じゃぁその横断歩道を越えたら、安全な場所で停車してください」

え？え？停車するの？？安全な場所？え？
おれはひどく困惑していた。安全な場所ってどこだ？？道路はずっと続いており、どこかに停まれるスペースも無ければ路肩もない。こんな道路の途中で停まってはたして良いのか？安全か？しかしさっさと停まらなければ、それはそれで減点になってしまう。
横断歩道を越えて、言われるがまま停車した。もちろん左に合図を出して寄ってから。

「…はい。ではここからは自主経路になりますね。地図を見て確認し、用意ができたら出発してください。」

なんだ？一瞬考えてなかったか？あれ？コレだめなの？？え？え？
ひどく困惑していた。困惑していたものの、とりあえず出発し、自主経路に入っていった。簡単なコースを設計したので、変なことをやらかす心配はない。あるとしたら道を間違えないかどうか…。そう考えていると

うわ！
前方をいきなり横切る歩行者。ひいてしまう！ひいてしまう！シミュレーションや学科の問題で見た光景が、いきなり目の前に現れた。仕込みか!?おれを落とすための策略か!?スピードを落とし、渡り終えるのを待った。そして再び加速し、道を間違えぬよう、あたりに注意を払っていた。

(さっきので後続車に迷惑かけたかな？)

そう考えてルームミラーで確認してみると、見えない!!!!ルームミラーの角度が全然合ってない!!!!!!!!しまった…。教習所を出るときから、ずっとルームミラーを合わせないで走行していたのだった。
やばい…。減点対象だ。今から変えようか。いやしかし、それはもはや忘れてましたと認めるようなものだ。まだ気づいてないかもしれないし…
おれは気づいてから、念入りにルームミラーを確認する“ふり”をするようになった。ちゃんと見えてますけど何か？的なアピールである。

自主経路の最初の角を曲がり、まっすぐ進む。あと２回曲がったら遂に終わりだ。そしたらたぶんまた、安全な場所で停車するように言われるのだろう。しかし安全な場所ってどこだ？？安全な場所…。あ!!!!!!!!安全な場所。横断歩道を越えて安全な場所

『横断歩道の前後５メートル以内は駐停車禁止』

これかぁぁ!!!!!!!!!!!!!!!そう気付いた時、込み上げてくる不安

(おれ…横断歩道越えてすぐに停車しなかったか…？)

さぁここからはもう、そのことしか頭に入らない。
減点？何点の減点だ？１点、５点、１０点、２０点!?駐停車禁止は法律違反なわけだし…。いやでもホントに５メートル以内に停車したか？５メートルってどのぐらい？この車は何メートル？

ひどく困惑していた。
そんなこんなでパニックのままゴール前へとやったきた。そして再びあの言葉が発せられる。

「じゃぁその横断歩道を越えたら安全な場所に停めてください」

安全な場所なんてない!!今にも北朝鮮から核ミサイルが飛んでくるかもしれない、大地震が起きるかもしれない。そう考えれば、安全な場所なんてないじゃないか!!!
もはやパニックだった。

５メートルを確実に越えたところで停車し、ひとまずおれの卒検が終わった。あとは次の受験者に運転を交代し、後部座席で教習所に着くのを待つ。そして校内で車庫入れをやって終了である。運転を交代し後部座席に乗り込む。
とりあえずやるだけのことはやった。もう悩む心配はない。結果を待つのみ。

車庫入れ。車庫入れとは、バックで後退しながらハンドルを切っていき、車を車庫に入れること。更に卒検では、そこから逆側に出るところまでやる。右から後退しながら車庫に入れ、そこからまた左に出ていく。いわゆる方向変換というものである。
この車庫入れ、得意か苦手かで言われたら苦手である。見える景色や縁石を目印にするのだけれど、おれは教官に一度しか教わっておらず、その通りにやったら失敗したのだ。遅すぎたらしい。だからその言われた目印より、気持ち少し手前でハンドルを切っていた。フィーリングでやっているに等しいものである。もはや運。早すぎたり、遅すぎて出るときに脱輪したらそこで終了。不合格確定。
おれはいつものようにフィーリングでゆっくりとハンドルを切っていった。そして角に差し掛かった時

(あ、…これ若干遅いパターンだ…)

思った通り、停車してみると右のスペースが結構空いている。左に出ていくのだから、右のスペースはできるだけ無い方がいい。しかし左を見てみると、左もそこまで狭いというほどではない。これならばまぁ出られるハズである。そう考えていると、横で教官がこう指示してきた。

「良いと思えば出てください」

良いと思えば？？これじゃダメだというのか!?

少し右に出ていき後退する、幅寄せという技もあることにはある。けれどそれをやることは、非を認めることになるし、出れるのに無駄にやったらマイナスになりかねん。しかしもし出れなくて脱輪してしまったら…ええい行ったれ！
おれは自分を信じて左に曲がっていった。
内輪差90センチ内輪差90センチ
第一段階の時、乗る教官乗る教官に呪いのように言われた言葉を頭に浮かべ、必死に出ていった。そして無事に成功させた。

ゴール地点に車を停車させ、教官と二人きりなり遂におれの採点が始まった。言われたのはあの最初の事故現場の時のふらつき。あと一番最初の見通しの悪い交差点に出るとき、後ろから車が来ていたことに気がついたかということ。どちらもまぁ危険ではなく安全な距離を取っていて、特に問題ってほどではないが、欲を言えばもうちょい安全にすればより良いというものだった。横断歩道云々、ルームミラー云々には全く触れてこなかった。
だが、逆にそれがおれを不安にさせた。もしかして不合格確定で言い出しにくいのでは…
どこまでも心配性なのである。結果待ちの間、ドキドキし過ぎで、大丈夫かと何度も絡んでくる

Ａ君をひっぱたいてやろうかと思ったほどである。

さて、結果発表があり、無事合格しました。全員合格です。よかった。
全員合格が確定したあと、校長からのお話がありました。これから本検を受けるにあたっての注意みたいなものである。校長はこう言った

「えー、ウチの学校は実技の合格率は96%です。また乗車から修検、卒検までの全て一発合格で進んでいく確率は86%です。栃木県内にある35校の内、実技の合格率は1位です」

とんでもない数値である。しかしこれにはカラクリがある。
ある日教官がもらした話であるが

「この学校は乗り越しをさせない。なぜなら乗り越しの補修を無料でやっていてお金にならないから。特に合宿生に関しては、 さっさと出して新しいのを入れてお金にしたいので、最短でいかせるようにしている。そのため模擬テストは何度も受けさせる場合が多々ある」

テキトーな学校なのだ。どれだけミスしても最後にはスタンプが貰え、検定でもエンストー回脱輪一回程度なら見逃す。模擬試験に関しても、Ａ君が23回受けたように、必ず受かって修検や卒検に進めるようにする。
おれが最後に2回同じ問題をやらされたのもそういうカラクリである。おれ自身はちゃんと勉強したから自信があったのだけれど。
そんなカラクリによる１位の称号。しかし話はここからだ

「しかし、このあと免許センターで受ける試験、この結果が何故かあまりよろしくない。35校中25位あたりを行ったり来たりしている。ウチの学校は運動神経の良い子ばかり入ってくるようだ(笑)」

違うだろ!!!!!ちゃんと勉強させないで合格にしちゃい、実技も金欲しさに簡単に合格にしちゃうからだろう。だから正規の試験の免許センターとの差がこんなに出るんでしょうが!!

そんなこんなで校長の話が終わり、普通免許の人達には、書類と免許センターの説明が行われた。その説明をしてくれたのが、あの同級生であったので、おれは苦虫を噛み潰したような顔になった。

説明が終わり、最後にアンケートを書かされたのですが酷かった。
おれは、学校の授業の最後で配られるアンケートにさえ、正直に悪いところは悪いと書き、テキトーに全て高評価にして終わらせたりしないほど、正直に細かく点数を書いたりするのですが

、今回はそうはいかなかった。
本当なら教官の態度が悪いとか、その教官も名前を書いていいとのことなので書こうとしたのですよ。送迎バスが汚いとか、教え方が悪いとか。しかし、性別と年齢を記入させられるのですが、今回の普通車の合格者は４人で、男は３名で20代は２人。更に提出先は同級生である。プライバシーのプの字も保護できてないじゃないか!!!!
そうしておれは嘘で取り繕ったアンケートを提出し、父の迎えにより刑務所を出所したのだった。

長く苦しい免許合宿。今思い返せばいい思い出…ではない。あんな環境なかなかない！二度と体験したくない。